

平成29年度 ふるさとの農林漁業体験支援事業活動事例集



# 元気なふくしまっ子 ふるさとの農林漁業体験支援事業



平成30年3月  
福島県農林水産部



## はじめに

東日本大震災と原子力発電所の事故により、それまでに県内各地で行われてきた農作業体験等の取組が中止されるなど、盛んになりつつあった食育に関する活動が停滞し、特に子ども達が多感な時期に貴重な経験ができなくなり、さらには県産食品に対する放射性物質の不安が広がるなど様々な課題が生じました。

また、児童生徒の朝食欠食や肥満傾向の問題など、新たな課題も明らかになるなか、県では平成27年3月に、「食を通して ふくしまの 未来を担う 人を育てる ～家庭、学校、地域が一体となった食育の推進～」を基本目標とする「第三次福島県食育推進計画」を策定し、食育に関する様々な施策を推進するとしたところです。

本計画に基づき、子ども達が食育活動に参加する機会を拡大し、適切な食品を選択する力や家庭等における豊かな食生活を実践する力を養うため、県内の8つの団体に委託し、農林水産物等の生産、流通、販売、消費などの様々な「食」に関する体験や交流を主体とした食育活動を実施しました。

具体的には、地域の子ども達を参集し、地域の特産の野菜や果物、お米、魚、牛乳等を題材に農林漁業体験を行うとともに、実際に収穫した食材を使った調理・加工体験や、それらに携わる生産者や地元の方々との交流会を開催しました。

本事例集は、これらの取組の内容や成果について取りまとめたものです。参加した子ども達の発見や変化、さらには、子ども達の変化に感動する親の感想などから、生産から流通、消費に至るまで、本県農林水産物への理解の深まりが感じられました。

東日本大震災から7年が経過し、子ども達の農作業体験等の取組は、年々増えているものの、まだ東日本大震災前の水準には、戻っていません。本事例集が、子ども達が食育活動に参加する機会の拡大に、何らかの手掛かりになることを切に願っています。

福島県農林水産部長

佐竹 浩

平成30年3月

## 目次

事例1	食べておいしい！！学んでうれしい！！ 親子「食」体験交流教室 株式会社エフエム福島	1
事例2	ふくしまの食再発見プロジェクト リビング親子食育体験教室 株式会社福島リビング新聞社	3
事例3	親子でわくわく！！ふるさとでたべるをまなぶ！！ ふくしまっ子元気塾 企業組合エフ・エヌ・シー	5
事例4	会津の魅力発見隊 見る・作る・食べる 会津よつば農業協同組合	7
事例5	こども野菜食堂プロジェクト 有限会社ドットネット	9
事例6	稲刈り体験と採れたて米の試食 株式会社ラジオ福島	11
事例7	野菜作りって大変だ！！ でも美味しい野菜の為に頑張るぞ！！ 有限会社南会津高原ファーム	13
事例8	さわやかな高原、いわきの里鬼ヶ城での収穫！食体験！ 株式会社いわきの里鬼ヶ城	15

食べておいしい!!学んでうれしい!!!  
親子「食」体験交流教室  
株式会社エフエム福島

活 動 概 要

生産者と交流しながら農産物の収穫体験や、乳搾り体験、プロのお菓子屋さんを講師に迎え、料理体験を実施しました。

取 組 内 容

1 親子で桃収穫と料理体験

日時：平成29年8月18日（金）

9：00～15：00

場所：みちのく観光果樹園（福島市）、福島ガスショールームプロメ

講師：斉藤隆一氏（福島市 菓匠 清泉堂）

参加者：22名（うち子ども13名）

内容：果樹園で桃を収穫し、福島のおいしい桃ができるまでの作業や安全性を学びました。また、桃を使ったお菓子づくりを実施しました。



桃の収穫体験

2 親子でりんご収穫と料理体験

日時：平成29年10月29日（日）

9：30～15：00

場所：大野農園（石川町）、白河市人材育成センター調理室

講師：斉藤隆一氏（福島市 菓匠 清泉堂）

参加者：37名（うち子ども20名）

内容：りんごの収穫体験を行うとともに、クイズを通してりんごの品種や生産量などについて学習しました。  
また、りんごを使ったお菓子づくりを実施しました。



りんごの収穫体験

3 親子で乳搾り体験と料理体験

日時：平成29年12月27日（水）

10：20～14：30

場所：柚原ファーム（南相馬市）

道の駅南相馬 調理実習室

講師：斉藤隆一氏（福島市 菓匠 清泉堂）

参加者：9名（うち子ども6名）

内容：牛の乳搾りを体験するとともに、生乳の衛生管理、安全性について学びました。  
また、牛乳を使ったお菓子づくりを実施しました。



乳搾り体験

## 活動成果

- 収穫体験を通して参加者が、農産物が成長し、店頭に並ぶまでの過程を知ったり、生産者の努力を知る機会となった。
- 果物や牛乳のお菓子の調理の仕方など、参加者が新しい知識を得る機会となった。

### 参加者の声

- ◇ 採れたての桃は甘くおいしかった。生産者の話がおもしろかった。
- ◇ 講師が分かりやすく教えてくれたので、子どもでもすぐに取り組めた。
- ◇ 普段子どもが包丁を持つ機会がなかなかないが、切ったり混ぜたりと楽しく料理できた。
- ◇ 実際に畑に行き、収穫できたことは貴重な体験になった。天候などで左右される農家の大変さなどを感じた。
- ◇ プロの先生に教わる機会はなかなか無いので、貴重な経験ができた。
- ◇ 牛を見ることも初めてで、子どもにもいい経験ができた。
- ◇ 牛乳・乳製品の風評がまだ続いているのがとても悲しいが、負けずに頑張っていたきたい。

## 取組に当たって工夫した点

- 参加いただいた家族の方に「楽しかった」「勉強になった」と感じていただけるよう、生産者・講師の付添のもと体験時間を多くとってイベントを実施した。
- 料理教室では自宅でも簡単に作れるレシピを基本に実施。ワンポイントアドバイスも加え、子どもたちが自主的に料理に参加できるような内容で進めていった。

## 今後の活動に向けて

- 今回のイベントでは果物の収穫体験等を中心に進めてきたが、今後は野菜収穫や漁業関連の体験も視野に入れて実施していく。
- イベント終了後、子どもたちの元気な声を中心に収録した内容を、ラジオ番組内で紹介していく。

## 事業実施団体

団体名 株式会社エフエム福島（担当 福島支社）  
住 所 福島市栄町6-6ユニックスビル7階  
電 話 024-522-9000  
FAX 024-522-9100

# ふくしまの食再発見プロジェクト リビング親子食育体験教室 株式会社福島リビング新聞社

## 活動概要

イワナつかみ体験や、あんぼ柿の製造工程見学、調理体験を通して県産農林水産物の魅力を再発見するとともに、食の安全・安心についても理解を深めました。

## 取組内容

### 1 川内村でのイワナつかみ体験と料理教室

日時：平成29年9月10日（日）

10：30～14：30

場所：いわなの郷（川内村）

参加者：28名（うち子ども14名）

内容：イワナのつかみ取りを実施し、参加者自らがイワナやほっき貝をさばき、ホイル焼きやほっき飯を作りました。



いわなつかみ体験

その後は、長崎大学の福島芳子助教から放射性物質検査等の震災後の安全・安心の取組みのお話や、相馬魚類株式会社のおさかなマイスター加藤修一郎氏、藤岡光氏による魚の素晴らしさや食べ物大切さといった話と、実際に魚に触れるお魚タッチといった活動を行いました。



お魚タッチ

### 2 あんぼ柿の工程見学とお菓子づくり教室

日時：平成29年12月9日（土）

13：00～16：30

場所：あんぼ工房みらい（伊達市）、サンライフ福島

参加者：30名（うち子ども15名）

内容：JAふくしま未来あんぼ柿振興センター（あんぼ工房みらい）にて、芳賀武志センター長の案内のもと、皮むき、乾燥、箱詰め等の製造工程と放射性物質検査場の見学を行いました。



あんぼ柿の見学

その後、ふくしま食育実践サポーターの轡田幹子氏、伊藤麻家氏を講師に、あんぼ柿を使用した揚げ春巻きとどら焼きづくりを実施しました。



お菓子づくり

## 活動成果

- 自分で取り、調理し、食すことで、食べ物には命があり、その命をいただいて生きていることやそこに様々な人が関わっていることを再認識してもらえた。
- あんぽ柿の魅力や生産者の苦労や思い、全量検査体制について理解してもらい、多くの参加者の食に対する意識が変わった。
- 講話や見学を通して、放射能に対する正しい理解を深めることが出来た。

### 参加者の声

- ◇ 子どもが魚が苦手なで、魚料理も食べなかったが、今回の体験で命をいただいているという考え方を持つことで、少しずつ食べられるようになった。
- ◇ あんぽ柿の詳しい製造方法を知り、とても興味深かった。子どももとても好奇心を持って見学していたので良かった。
- ◇ 「自分で作りたい！包丁持てるよ！」と言って、手作りしたがるようになった。
- ◇ 震災後は、子どもの口に入るものは県外の食べ物を多く選んできた。これからは積極的に地元産のものを選んでいきたい。
- ◇ 最盛期には、放射能検査を夜遅くまでやっていると聞き、このような方々のおかげで私たちは安心して食べることが出来ているんだと心から感じた

## 取組に当たって工夫した点

- 福島県で取れた魚や農産物は、安全でおいしいということを理解してもらうため、生産者や食に携わる方から直に話を聞くことで、より身近に感じてもらう工夫をした。
- 媒体社として、参加できなかった方を含め多くの方々へ、事後レポートを通じて事業の内容を伝えられたことも、福島県食育応援企業としての役割を果たせた。

## 今後の活動に向けて

- 募集人員を大幅に超える応募があり、関心の高さがうかがえる事業だった。今後も継続実施し、福島県の食の安全性とおいしさを親子で学べる貴重な機会としたい。

## 事業実施団体

団体名 株式会社福島リビング新聞社（担当 郡山支社）  
住 所 郡山市清水台1丁目3-8  
電 話 024-934-6120  
FAX 024-934-7231

# 親子でわくわく!!ふるさとで食べるをまなぶ!!ふくしまっ子げんき塾

(『世界ごはん』を作って!地元の『農業』と『食べる』を学ぼう!楽しもう!)

企業組合エフ・エヌ・シー

## 活動概要

農業体験や調理体験を通し、地元農産物の魅力や食文化・食の多様性を楽しむとともに、県産農産物と放射線についての正しい知識今後の食生活に取り入れることを学びました。

## 取組内容

### 1 稲刈り体験・もちつき体験・おもちバイキング

日時：平成29年9月30日(土) 10:40~15:00

場所：うねめ農場ほ場(郡山市)

逢瀬町河内ふれあいセンター(郡山市)

参加者：12名(うち子ども8名)

内容：鎌を使って手刈りによる米の収穫体験を行いました。

その後センターへ移動し、郡山市逢瀬地区に伝わる

もちつき唄に合わせて、千本杵を使った餅つきを行った後、

5種類のお餅料理を作りバイキング形式で味わいました。

また、逢瀬公園売店の佐藤洋子店長から地元産品の流通について、食育実践サポーターの伊藤麻家氏からは食育と県産農産物および放射線についてのお話を参加者と対話形式で行い理解を深めました。



米の収穫体験



餅つき

### 2 農業体験・「天のつぶ」で世界のごはんメニューを作ろう!

日時：平成29年10月21日(土)

10:40~15:00

場所：うねめ農場倉庫(郡山市)

片平ふれあいセンター(郡山市)

参加者：23名(うち子ども14名)

内容：農機具の試乗・見学や米の袋詰め作業を体験しました。

その後「天のつぶ」と県産食材などでパエリアや

タコライスといった「世界のごはん」メニューを調理し、

完成後は食事交流会として参加者全員で味わいました。



調理体験

最後に食育実践サポーターの響田幹子氏と伊藤麻家氏から食育についてのお話と、県産農産物について輸出の拡大と安全性の高まりなど対話形式の研修を行い、理解を深めました。



## 活動成果

- 生産者との交流や農業体験、調理体験を通じて「食」に対する考え方や向き合い方が、また新たなものにできた機会となった。
- 地元産品の魅力を知ること、これまで以上に地元産品を選んで購入していきたいという意識付けができた。
- イベント参加後に家庭内で食材やその産地、料理についての会話や、子供達の家事手伝いの機会が増えたなど、親子を通じて「食」に関する意識の変化が見られた。

### 参加者の声

- ◇ 稲刈り体験をして、米粒1粒も残せない気持ちで食べるようになった。
- ◇ スーパーなどで生産者が分かるものを、なるべく選ぶようになった。
- ◇ 外国の料理を体験して、「おいしかったよ!」と言いながら、子どもが料理をしてくれるようになった。
- ◇ 県産農産物はきちんと検査されているので、抵抗なく地元産を買えるようになった。
- ◇ 食べないで嫌い!ではなく出されたものは、何でも食べてから好みを言うようになった。

## 取組に当たって工夫した点

- 収穫から、調理、食事まで、“一貫性がある体験型研修”に重点をおいて実施した。
- 「餅つき」などを通じて地元にも伝わる「郷土食」や「食文化」を、また「世界ごはん」の調理を通じて「食の多様性」を学んでもらう内容とした。
- 参加者や講師、スタッフとあまり区別せず一体となって参加できる雰囲気づくり。

## 今後の活動に向けて

- 収穫体験・調理体験・食事会など「一貫性がある体験型研修」での食育活動の推進
- 郷土の食文化をはじめ海外の食文化にも視野を広げた食育活動の推進

## 事業実施団体

団体名	企業組合エフ・エヌ・シー
住所	郡山市片平町字新蟻塚133番地
電話	024-900-6247
FAX	024-900-6247

# 会津の魅力発見隊 見る・作る・食べる

## 会津よつば農業協同組合

### 活動概要

農作物収穫体験や、ドレッシングの手作り体験、会津の夏野菜を使用したサラダの実食などにより、食や地域の産業、流通に対する新たな発見と理解を深めました。

### 取組内容

#### 1 ドレッシングづくりと会津産サラダ試食

日 時：平成29年7月27日（木）

9：30～12：00

場 所：JA会津よつば直売所まんま～じゃ、  
本店調理室（会津若松市）

参加者：10名（うち子ども5名）

内 容：最初に直売所を見学し、サラダに使う地元野菜を選定しました。その後調理室にてキューピー（株）の田邊春香氏を講師にドレッシングづくりを行い、サラダとともに試食しました。  
また、JAの越智秀博営農指導員を講師として会津の野菜について、学習を行いました。



ドレッシングづくり



サラダ試食

#### 2 トマト収穫体験と放射能検査の見学

日 時：平成29年8月8日（火）

9：30～12：00

場 所：トマト農家ハウスほ場（会津若松市）、  
JA会津よつば本店（会津若松市）

参加者：17名（うち子ども11名）

内 容：トマト農家のハウスで、完熟トマト等の収穫体験を行い、栽培の難しさなどの話を聞きました。  
その後はJA本店にて、放射能検査の進め方について見学しました。



トマト収穫体験



放射能検査見学

## 活動成果

- 参加者が会津平坦地と高冷地での品目や出荷時期の違いを理解した。
- 参加者が会津夏野菜の特徴や、独特の農業文化に触れることができた。
- 普段は何気なく食している農産物に対して農家の努力や想いを伝えることができ、参加者も会津産農産物に対して深い愛着を持つことができた。

### 参加者の声

- ◇ ジャムを使ったドレッシングなど、新しいサラダの食べ方を知ることが出来た。
- ◇ 野菜一つ一つの種類にそれぞれの栄養があり、バランス良く食べることの大切さに気づいた。
- ◇ 普段はあまり生野菜を食べないが、自分で作ったドレッシングでたくさん野菜を食べてくれた。
- ◇ 日頃野菜に触れることが少ないので、収穫する楽しさが伝わった。
- ◇ 地元の野菜や果物を選ぶようにしたいと思った。
- ◇ 身近にあるものが、作るのに大変苦勞していることがわかった。食べ物の見方を変えて生活していきたい。

## 取組に当たって工夫した点

- 子供たちが中心となり、興味を持つような体験内容とした。
- 親子、子供同士、親同士コミュニケーションが取れるような内容とした。
- 日々何気なく食している野菜について学べるような内容とした。
- 地産地消、食育活動を基本のテーマとした。

## 今後の活動に向けて

- 会津の食文化や旬の野菜について身近に触れて頂き、理解を深める事が出来る内容にしたい。
- 収穫から調理、食事までの一連の流れをもち、子供に楽しんで参加してもらえような内容にしたい。
- 会津地域の小中学校や関連団体等との連携をとり、当事業が地域全体に広がるような活動をしたい。

## 事業実施団体

団体名	会津よつば農業協同組合（担当 園芸直販部）
住所	会津坂下町字東南町裏甲 3 9 8 5 - 1
電話	0 2 4 2 - 8 3 - 3 9 8 1
F A X	0 2 4 2 - 8 3 - 2 8 4 4

# こども野菜食堂プロジェクト 有限会社ドットネット

## 活動概要

放射能への理解を深めるとともに、安全安心な食を楽しむために、安心な食をつくり調理することや販売活動等を通して、命をいただく「学び」を子どもと実践しました。

## 取組内容

### 1 収穫体験・調理学習

日時：平成29年9月9日（土）

9：30～13：00

場所：ドットネットほ場（会津若松市）

参加者：26名（うち子ども16名）

内容：ミニトマト等の収穫をし、おいしい野菜が出来るまでの大変さなどを学びました。それらの食材を調理し、参加者全員で食べて、野菜のおいしさや協力することの大切さを学びました。



ミニトマト収穫体験

### 2 首都圏での販売体験

日時：平成29年11月3日（金）～5日（日）

場所：イオンレイクタウン店（埼玉県）

参加者：4名（うち子ども4名）

内容：トマト、ミニトマト、里芋、白菜等、地元の野菜の販売を体験し、お客様とのふれあいの中で、地元の良さや他者へ伝える言葉遣い、大変さ、喜びを学びました。



調理体験

### 3 振り返り学習

日時：1回目 平成29年11月7日（火） 9：00～11：30

2回目 平成30年 1月5日（金） 13：00～15：30

場所：1回目 NPO法人寺子屋方丈舎（会津若松市）

2回目 有限会社ドットネット（会津若松市）

参加者：1回目 4名（うち子ども4名） 2回目 6名（うち子ども6名）

内容：ドットネットより、福島県の米、野菜の生産・流通について、放射能検査体制も含め説明しました。また、ファシリテーターを活用しながら、今までの活動についての感想、反省等を含めた振り返りについて話し合いを行いました。



販売体験

## 活動成果

- 子ども達が、自ら野菜を収穫から調理まで行うことで、地元の野菜のおいしさや収穫することの喜び・大変さを学んでもらえることができた。
- 県外での販売体験では、地元の良さや野菜のおいしさ等、自分で考えながら他者へ伝える大変さや喜びを学んでもらえることが出来た。

## 参加者の声

- ◇ 大切に育てられた野菜を好き嫌いせず食べようという意識が変わった。
- ◇ 福島のものを食べよう、知ってもらおうという積極性ができてきた。
- ◇ 産地を意識するようになった。
- ◇ 販売体験が初めてだったので面白かったようだ。ミニトマトが人気だったなど販売状況を話していた。

## 取組に当たって工夫した点

- 子ども達が自分の手で収穫した感覚や感動を大切に調理・販売まで一貫して行った。
- 子ども達の元気さが食べ物への信頼として、首都圏で発信した。

## 今後の活動に向けて

- 自ら参加し、学ぶ・体験するという事業の必要性を改めて実感するとともに今後もこのような活動を継続していきたい。
- 地元の伝統や食文化の理解を深めることができるプログラムを作りたい。

## 事業実施団体

団体名	有限会社ドットネット
住所	会津若松市駅前町8-1 2階
電話	0242-85-6735
FAX	0242-85-7088

# 稲刈り体験と採れたて米の試食 株式会社ラジオ福島

## 活 動 概 要

自分たちで農作業、稲刈りをする事で、福島県米のおいしさを実感するとともに、地元生産者との交流を深めました。

## 取 組 内 容

### 1 稲刈り体験と味噌造り体験

日時：平成29年10月8日（日）

10:00～12:00

場所：鶴野辺地区水田（会津美里町）

沖中田多目的集会場

参加者：33名（子ども17名）

内容：会津美里町鶴野辺地区にて、地元の「沖中田のムラを楽しくする田んぼ作り隊」の協力の下、手刈りによる稲刈り体験と手作りの味噌造り体験を実施しました。



稲刈り体験



稲刈り後の参加者

### 2 食事交流会と学習会

日時：同日

12:00～15:00

場所：沖中田多目的集会場

内容：地元産の新米と野菜などの食材を使った食事交流会を実施し、会津美里町の紹介などを通して、地元住民の方々との交流を深めました。

また、JA会津よつば平山長一課長から、福島県の農産物のおいしさと安全性について、話をしてもらいました。



味噌造り体験



食事交流会

## 活動成果

- 参加した子どもたちが、食に対する関心を持つようになった。
- 地元協力者の間で、「今後も実施したい」という声上がるなど、食育に関する気運が高まった。

### 参加者の声

- ◇ 初めて鎌を持ったので怖がっていたが、稲刈りの大変さを実感できた。一粒も残さずご飯を食べるようになった。
- ◇ 積極的に畑に野菜を採りに行き、調理などを手伝ってくれるようになった。
- ◇ 安全性が再確認できた。他県の方にも理解して欲しい気持ちが強まった。
- ◇ 何かにつけて福島県の食べ物はおいしいと言うようになった。朝食はごはんを好むようになった。

## 取組に当たって工夫した点

- 相双地区の子供たちと会津地区の子供たちの交流も大切にした。
- 移動時間が長い分、移動のバスの中でクイズ大会や福島県の紹介DVD放映などを実施した。
- ラジオ番組で放送することで、違う角度からも興味を持ってもらうようにした。

## 今後の活動に向けて

- 自分で育てる、自分で収穫する、自分で調理するという体験を米だけではなく、ほかの食材（野菜など）でも実施していきたい。

## 事業実施団体

団体名 株式会社ラジオ福島  
住 所 福島市下荒子8  
電 話 024-531-4320  
FAX 024-531-4329

# 野菜作りって大変だ！！でもおいしい野菜の為に頑張るぞ！！

有限会社南会津高原ファーム

## 活動概要

何気なく口にしている食物への理解を深めて、感謝の気持ちを持った大人になってもらえるように、だいこんの収穫体験や、調理実習、販売体験などを実施しました。

## 取組内容

### 1 だいこん収穫・調製体験

日時：平成29年10月14日（土）

9：00～11：30

場所：南会津高原ファーム（下郷町）

参加者：35名（子ども35名）

内容：下郷町のほ場にて、だいこんの収穫体験を実施しました。

収穫しただいこんを洗い、大きさ、形状による選別を行いました。



だいこん収穫体験

### 2 調理体験と食育学習

日時：同日 11：30～14：30

場所：クラインガルテン下郷

内容：収穫しただいこんを用いて、調理実習を行いました。

調理しただいこんを実食するとともに、食育実践サポーターの瀬田恒夫氏より、放射能事故の影響や、手洗いの重要性など、食の安全に関する講義を行いました。



実食の様子

### 3 販売体験

日時：同日 14：30～16：00

場所：下郷町物産館

内容：収穫・調製しただいこんを用いて、物産館利用客への対面販売を実施しました。



販売体験



## 活動成果

- 収穫した野菜の実食・販売を一貫して経験した事で、野菜生産作業の苦勞と喜びを理解してもらえた。
- 新聞等で取り上げられたことで問い合わせが増え、地域住民の農業への関心を喚起できた。

### 参加者の声

- ◇ 収穫から販売まで体験して、農業の大変さを少しわかったような気がする。
- ◇ 販売体験で売れるだいこんを見ていると嬉しくなった。きっと農家の人たちも同じ気持ちなんだろうと思った。
- ◇ 野菜の産地を気にするようになった。
- ◇ これまで残していた野菜を食べるようになった。
- ◇ 刺身のつまのだいこんを残すのを見て、「もったいないね」と言っていた。

## 取組に当たって工夫した点

- 新聞社と連携して、体験の様子を記事にして多くの人に伝えた。
- 被災地出身の子ども達が在籍する団体へ、積極的に参加呼びかけを行った。

## 今後の活動に向けて

- さらに多くの参加者が集まるようなテーマや、開催時期を検討していきたい。

## 事業実施団体

団体名 有限会社 南会津高原ファーム  
住 所 下郷町音金松林2410  
電 話 0241-67-3981  
FAX 024-505-4092

# さわやかな高原、いわきの里鬼ヶ城での収穫！食体験！

## 株式会社いわきの里鬼ヶ城

### 活 動 概 要

自然豊かな立地条件を生かして、野菜収穫体験や調理・販売体験をし、一連の体験を通じて、地元の関係者と関わることの大切さを学んだり、自分で作る楽しさを身に付けてもらいました。

### 取 組 内 容

#### 1 収穫体験、ピザ焼き体験、販売体験

日 時：1回目 平成29年7月29日（土）

10：00～15：00

2回目 平成29年8月6日（日）

10：00～15：00

場 所：いわきの里鬼ヶ城（いわき市）

参加者：1回目 19名（うち子ども11名）

2回目 33名（うち子ども19名）

内 容：じゃがいも、ししとう、ピーマンなどの夏野菜の収穫体験を実施し、収穫した野菜を使ってピザづくりをしました。

また施設内のレストハウスで農産物の販売についてシミュレーションする体験を実施しました。

食育実践サポーターの荻野智代氏からは福島県で実施している放射能等に関する安全安心の取組みと、野菜についての豆知識の話を参加者へお伝えしました。



収穫体験



ピザづくり



安全安心の講義

## 活動成果

- 炎天下での農家の苦勞がわかった、共同作業を体験できたとの声があり、収穫体験が、子どもたちの農業に対する感覚に変化を与えることができた。
- 調理体験では、できるだけ子ども達が加工を体験できるように実施し、「自分で作ったピザがおいしい」等の、食に対する声を聞くことができた。
- 食育実践サポーターを活用することで、食の安全や野菜の豆知識等を分かりやすく親子に伝えることができた。

## 参加者の声

- ◇ 子供とともに収穫調理体験をして楽しい体験ができた。
- ◇ 天候に左右されやすい農業の大変さが分かった。
- ◇ 自分で収穫し、調理する楽しさを味わったことで、食事や調理に関わるようになった。
- ◇ 野菜を残さず食べるようになった。
- ◇ 地元産の食の安全の取組みについて学び、安心して食べられることを知り、前より地元産を食べるようになった。

## 取組に当たって工夫した点

- 親子での共同作業の機会をできるだけ設けるようなプログラムにした。
- ラベンダー摘み、ブルーベリー摘み、ヤギとのふれあい等、施設設備を活かした体験も実施し、内容を充実させた。

## 今後の活動に向けて

- 自然豊かで体験施設が充実している施設を活かし、親子での体験の機会を今後も増やしていく。

## 事業実施団体

団体名 株式会社いわきの里鬼ヶ城  
住 所 いわき市川前町上桶売字小久田73-3  
電 話 0246-84-2288  
FAX 0246-84-2180



福島県農林水産部農産物流通課  
〒960-8670 福島市杉妻町2番16号  
電話 024-521-7354  
FAX 024-521-7942  
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035a/>

